



郷土を愛する気持ちを育むための探究的な活動の推進

小中一貫教育において、第4号(7月発行)で紹介したように大きく分けて6つの事に取り組みます。今回は第3弾として、総合的な学習の時間を中心として郷土を愛する気持ちを育むための探究的な活動の推進について紹介します。

総合的な学習の時間とは

総合的な学習の時間は今から20年前の平成14(2002)年度より順次小学校(第3学年以上)・中学校・高等学校で始まりました。ねらいは、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、さらに学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取りくむ態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることです。

このねらいをもとに、たとえば国際理解・情報・環境・福祉・健康などの1つの教科だけで解決することができない教科横断的・総合的課題、児童生徒の興味・関心にもとづく課題、郷土(地域)や学校の特色に応じた課題などについて、学校が決めて学習しています。学校の実情や特色を活かせることから、1つの課題について年間で取り組む学校もあれば、時間を区切っていくつかの課題について取り組む学校もあります。小・中学校の年間授業時数は小学校70時間、中学校1年生は50時間、2・3年生は70時間です。

なぜ郷土を課題として取り上げるのか

小・中学校において、今住んでいる二宮町で人々がどんな仕事をして、どんな暮らしをし、昔と今では暮らしがどのように移り変わっているのか。また、安全・安心で健康なまちづくりのためにどのようなことが取り組まれているかを知ることは、まちづくりに参画する最初の契機となります。小・中学校の「総合的な学習の時間」を核に、探究的な学習を体系化して郷土を愛する気持ちを育む「ふるさと学」(仮称「にの学」)の学習を推進していきたいと考えています。

今までに 取り組んでいる郷土を取り上げる課題

小学校	・二宮町を探検する ・昔の道具や暮らしについて調べてみよう	・二宮間の魅力を調べる ・地域の環境紹介	・町についてもっと調べよう
中学校	・ニノアドベンチャー ・私たちのできる地域貢献 ・地域の課題を考えよう		

本年度の中学校での実践

神奈川新聞(令和4年11月4日付け)に二宮中学校の取り組みが次のように紹介されました。総合的な学習の時間を活用した「カモン!二宮!プロジェクト」は、「政策」「リーフレット」「お土産」「PR動画」の中からそれぞれがテーマを選び、現状分析や現地調査を踏まえて作成しました。10月28日に開かれた発表会で生徒は、同町のPRキャラクター「ニーノとミーヤ」を使用したグッズ製作をはじめ、町の季節の花として有名な菜の花を模した落花生まんじゅうの製造・販売などを提案。「若者や家族連れに来てもらうため」と、町役場移転を見据えた上で同庁舎跡地から吾妻山公園山頂へ観光客らを運ぶリフトの建設案もありました。



リーフレット

子育て世代に訴えかける施策の観点から、保育園の充実を要望した生徒もおり、保育士への取材を通じて「保育士不足の原因は給料が低いから。もっと上げてほしい」と主張しました。それぞれ聞き手を意識した発表を見せ、会場を訪れた町長からは「提案を一つ一つ受け止めて、どこからできるか一緒に考えていきたい」と講評をいただきました。

尚、二宮西中学校においても、同様の取組として「定住促進」「学校の再編」「地域の活性化」「出生率の低下」を課題として同じ時期に発表が行われました。